

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)株式会社 飯村機械製作所 京都工場 新事務所棟 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境					0.40				2.6
1 音環境				3.4	0.15				3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40				
1.2 遮音				4.2	0.40				
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能: T-2以上。		5.0	0.60				
2 界壁遮音性能				3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音				3.0	0.20				
2 温熱環境				1.7	0.35				1.7
2.1 室温制御				2.5	0.50				
1 室温				3.0	0.38				
2 外皮性能				1.0	0.25				
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38				
2.2 湿度制御				1.0	0.20				
2.3 空調方式				1.0	0.30				
3 光・視環境				2.8	0.25				2.8
3.1 昼光利用				2.4	0.30				
1 昼光率				2.0	0.60				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				3.0	0.30				
1 昼光制御				3.0	1.00				
3.3 照度				3.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	0.25				
4 空気質環境				3.4	0.25				3.4
4.1 発生源対策				4.0	0.50				
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00				
4.2 換気				2.6	0.30				
1 換気量				1.0	0.33				
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。		4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33				
4.3 運用管理				3.0	0.20				
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御				3.0	1.00				
Q2 サービス性能					0.30				2.9
1 機能性				2.6	0.40				2.6
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40				
1 広さ・収納性				3.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33				
3 バリアフリー計画				3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30				
1 広さ感・景観		事務室の天井高2.9m以上。		5.0	0.33				
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33				
3 内装計画				1.0	0.33				
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30				2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水 H1VP(B)、排水 VP(B)、給湯 HTVP(B)、Eは不使用。		4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				2.8	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				2.0	0.20				

3	対応性・更新性		3.4	0.30		-	3.4
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30		-	
	1 階高のゆとり	階高: 3.9m以上。	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30		-	3.1
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		4.0	0.40		-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30		-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.7
LR1	エネルギー		-	0.40		-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m = 0.78	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI _m = 0.62	4.8	0.50		-	4.8
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価		-	-		-	
	4.1 モニタリング		-	-		-	
	4.2 運用管理体制		-	-		-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30		-	3.4
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.4	0.60		-	3.4
	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床: ビニル系床材, タイルカーペット。	4.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSとOAフロアを使用している。	5.0	0.20		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20		-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70		-	
	1 消火剤		-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	1.00		-	
	3 冷媒		-	-		-	
LR3	敷地外環境		-	0.30		-	3.4
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して72%。	4.1	0.33		-	4.1
2	地域環境への配慮		2.8	0.33		-	2.8
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33		-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音		3.0	1.00		-	
	2 振動		-	-		-	
	3 悪臭		-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制		-	-		-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋内照明のうち外に漏れる光への対策している。また、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)株式会社 阪村機械製作所 京都工場 新事務所棟 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-													
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	○	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	1.0	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC
屋光率	0.0%	η AH	-
自然換気有効開口面積率	4.9%	-	-

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡	-	-	-	-	-	-
天井高	3 m	-	-	-	-	-	-
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%	-	-	-	-
想定耐用年数	0 年	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-	-	-	-	-
想定必要間隔	0 年	-	-	-	-	-	-
階高	3.975 m	-	-	-	-	-	-
壁長さ比率	22.5%	-	-	-	-	-	-
床荷重	- N/m2	-	-	-	-	-	-

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	11%	建物緑化指数	0%
空地率	50%	水平投影面積率	12%
		地表面対策面積率	5%
		舗装面積率	44%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.78	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅 0.62	住宅	-
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%	-	-
特定調達品目	-	エコマーク商品	ビニル系床材, タ自給体指定の特品目等
使用比率	0.0%	-	-
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	66%	隣棟間隔指標Rw	0.64
地表面対策面積率	5.0%	屋根面対策面積率	0.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積S _b	576㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	58.68 m
		基準高さH _b	14.78 m
緑地	98㎡	水面	㎡
		保水性対策面	㎡
		高反射対策面	㎡
		再帰性反射対策面	㎡